

豊川圏域大規模氾濫減災総合サミットの開催

～豊川水防災サミット(国)、豊川圏域水防災協議会(県)の合同開催～

- 豊川の洪水から流域住民の命を守り、社会経済被害の最小化を目指す「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取組として、国や愛知県管理区間の関係機関、豊川や豊川圏域の減災に係る取組方針を策定している。
- 平成30年度では、危機管理型水位計の設置をはじめ、防災・減災に係る取り組みを実施。
- 「平成30年7月豪雨」を踏まえ、1月に「緊急行動計画」が改定された。それを踏まえ今回新たに利水ダム管理者である水資源機構に参画いただいた。

【開催概要】

日 時：令和元年5月9日(水) 13:30～15:00
 会 場：東三河建設事務所 5階 大会議室
 出席者：8市町村長、愛知県建設局長、名古屋地方気象台長、陸上自衛隊豊川駐屯地司令、水資源機構豊川用水総合事業部長、中部地方整備局 豊橋河川事務所長 その他防災担当者 計21機関

【主な議事】

- (国報告)タイムラインの運用の検証、ホットライン運用、危機管理型水位計の設置、洪水情報プッシュ型配信訓練、洪水予報連絡会・水防連絡会の事業計画等
- (愛知県報告)要配慮者利用施設における避難確保計画作成及び避難訓練、みずから守るプログラムの活用、L2浸水想定区域図作成と周知、危機管理型水位計の整備、柳生川の整備等
- (自治体報告)ドローン隊飛行隊の活動、危機管理訓練の実施、L2ハザードマップの作成状況等



豊橋河川事務所長



愛知県建設局長



豊橋市長



豊川市長



新城副市長



田原副市長

【主な発言内容】

- ・**豊橋市長**：昭和44年当時の浸水を想定し、どれだけの高さまで浸水したかお知らせする「浸水表示看板」を国のガイドラインに沿って作成し、設置した。また、豊川、豊川放水路の浸水想定区域と避難場所等を表示した「洪水ハザードマップ」を作成し、流域住民を対象に説明会を行うなど、周知していく。
- ・**豊川市長**：防災センターが9月中に完成する。情報伝達システムの見直しや浸水位置の路面表示の設置など、防災強化の充実を図る。
- ・**新城副市長**：豊川の樋門操作には地元住民が関わっているため、安全確保をさらに強化できるような対応を引き続きお願いしたい。
- ・**田原副市長**：災害に強いまちづくりを目指している。有事の際は国・県・市町村を含め一体となって対応をお願いしたい。